

目次

第1章	はじめに	1
	ビジョンの位置づけ	1
第2章	観光振興ビジョン	2
1	温故知新／未来につなぐ	4
2	住民と観光客の共生	5
3	地域主導による経済循環	7
4	宮古島の自然・景観を守る	9
5	文化と観光の循環をつくる	11
第3章	宮古島市の観光の現状	13
	(1) 宮古島市の観光の変遷（概略）	13
	(2) 宮古島市の観光の現状	14
	(3) 住民の主な意見	17
第4章	おわりに	18

第1章 はじめに

美しい海とサンゴの島が育む宮古島市の豊かな自然・文化・暮らしは、市内外の人々にとって大きな魅力となっています。本市では、2014年まで年間30~40万人であった入域観光客数が、伊良部大橋の開通をきっかけに右肩上がりの成長を続け、2024年度には過去最高の119万人に達しました。現在、宮古島市は観光・リゾート地として広く認知され、空港・港湾によって世界に開かれ、国内外から多くの観光客が訪れています。

これに伴い、観光収入額は2024年度には年間約1,073億円（空路観光客1人あたり：約10万6,000円）にもものぼり、観光は本市のリーディング産業となっています。

一方で、観光は国際情勢や災害の影響を受けやすく脆弱な面もあります。また、観光客急増の一方で、一部エリアの混雑やマナーの問題、水をはじめとする資源や環境の保全、観光産業の人手不足など、様々な課題も指摘されています。

観光は地域を活性化する手段であり、住民の満足・幸福につながるよう発展していかなければなりません。本市の持つポテンシャルを最大限に活用し、将来にわたって持続的な観光地域づくりに取り組むため、市民にとって望ましい観光の実現を目指していく必要があります。

ビジョンの位置づけ

観光振興ビジョンは、市民が考える観光のあるべき姿をまとめたものです。目標年度は定めず、中長期的に目指す姿としており、観光の方向性や取組がビジョンに近づいているか、常に立ち返るべき拠り所となることを目指しています。

本ビジョンは、宮古島市における観光振興が自然、文化、生活環境、産業などあらゆる分野と関連し、持続可能な観光地域づくりを実現していくための指針となるものです。

第2章 観光振興ビジョン

住民の意見や市の現状をふまえ、宮古島市が目指す観光の姿を次のとおり掲げます。

か すま みやーく 住む人も訪れる人も 笑顔になれる 美ぎ島宮古

宮古島市が長年育んできた自然・歴史・文化などは、他にはない独自の魅力であり多くの人を惹きつけています。誇りをもってこれらを守っていくとともに、観光振興に活かすことで住民の笑顔（共生・社会経済への波及効果）、観光客の笑顔（満足・交流）につなげ、次の世代に「美ぎ島（かぎすま）」をつないでいきます。

目指す姿を実現するための5つの指針

1 温故知新／未来につなぐ

- 1 先人たちから受け継いだ自然・歴史・文化・産業が、住民の豊かな暮らしを支え、次世代にも受け継がれています。
- 2 島ならではの人・食・音楽の魅力が時代を超えて国内外から多様な人々を呼び込み、交流が広がっています。
- 3 将来を担う若者が、宮古島での暮らしを誇りに感じ、定住・活躍しています。

2 住民と観光客の共生

- 1 観光客が宮古島固有の背景や価値観を理解し、尊重しています。
- 2 住民と観光客が交流する場や機会が創出されています。
- 3 観光振興が住民生活の質を高め、利便性の向上に寄与しています。
- 4 住民が宮古島の魅力や生活に必要なサービスに等しくアクセスできる環境が整備されています。
- 5 万が一の備えができていて、住民と観光客の安全が守られています。

3 地域主導による経済循環

- 1 観光消費が島内で循環し、住民の所得向上と地域経済の活性化に最大限貢献しています。
- 2 観光に関わる多様な人材が育つとともに、地元資本による事業が広がり、人と経済のネットワークが強固になっています。
- 3 地域のルールを守り、中長期的な視点で持続的に活動する事業者が活躍できる環境が整備されています。
- 4 島の農業・漁業・畜産業と観光の関わりが深まり、食の魅力がさらに発信されています。

4 宮古島の自然・景観を守る

- 1 住民、事業者、観光客が一体となり、宮古島の豊かな自然環境を保全し、共存するための責任と役割を共有しています。
- 2 開発による自然環境や住民生活への影響を最小化しています。
- 3 水や生態系を守るための選択・行動を一人ひとりが行っています。
- 4 限りある地域資源が適切に管理・保全され、将来世代に引き継がれています。
- 5 自然と人の営みの調和を保ちながら、宮古島らしい美しい景観が保全・創出されています。

5 文化と観光の循環をつくる

- 1 豊かな歴史や多様な文化の持つ価値が再確認され、次世代へ継承されています。
- 2 子どもたちが島の文化に触れてその価値を深く理解し、未来の文化の担い手・伝道者として育っています。
- 3 島で育まれた文化にふれることが、宮古島の魅力として観光客に認知・実感されています。
- 4 観光が伝統文化の魅力を国内外に発信し、継承に貢献しています。

1 温故知新／未来につなぐ

1 先人たちから受け継いだ自然・歴史・文化・産業が、住民の豊かな暮らしを支え、次世代にも受け継がれています。

大きな河川がなくサンゴ礁でできた宮古島市では、人々は一日に何度も水汲みをして暮らしをつないでいました。水道施設の整備により水汲みの必要はなくなり、たびたび湧水に悩まされてきた農業も地下ダムの整備等により発展を遂げてきましたが、現在も島の暮らしは、長い年月をかけて大切に育まれた自然や歴史、文化、産業の上に成り立っていることに変わりありません。

観光の魅力として新たな豊かさの源泉となっているこれらの宝が、住民・観光客など宮古島市に関わる人々によって守られ、次の世代に受け継がれています。

2 島ならではの食・音楽の魅力が時代を超えて国内外から多様な人々を呼び込み、交流が広がっています。

宮古島市で育まれた独自の食や音楽などの文化や、それらに囲まれて育ち実践する人々の存在が島内外で認知され、観光の目的や魅力となっています。これらにふれ、島ならではの魅力を体験したい人々が国内外から訪れています。

宮古島市を訪れた人々が食や音楽、人とのふれあいを通して島の魅力を知り、ファンになっています。こうした交流を通して、食や音楽に新たな要素が取り入れられ、発展が続いています。

3 将来を担う若者が、宮古島での暮らしを誇りに感じ、定住・活躍しています。

宮古島市での仕事や暮らしは若者が関わり挑戦できる環境が整っており、一度島を離れた人や島を訪れたことをきっかけに関心を持つ人など、宮古島市で暮らしたい人が増え、島内で定着しています。

宮古島市で暮らす若者は、住民として、観光客を迎える立場として、様々な場面で島の魅力にふれながら、未来の宮古島市をともにつくる一員となっています。

2 住民と観光客の共生

1 観光客が宮古島固有の背景や価値観を理解し、尊重しています。

宮古島市の土台をつくり、取り囲むサンゴ礁も、長い年月をかけて育まれています。島の歴史や文化も、こうした土台のもとに成り立っており、先人達より受け継いできました。

こうしたストーリーは観光客にも共有され、自然、歴史、文化、生活などがどのように育まれてきたかを学びながら体験することで、宮古島ならではの楽しみ方が広がり、島独自のものを住民・観光客がともに守る活動をしています。

2 住民と観光客が積極的に交流する場や機会が創出されています。

宮古島市では、観光客と住民がともに楽しめるイベントや、交流ができる場所（オンライン空間含む）が充実しています。観光客が、島の暮らしぶりの背景や住民が大切にしていることを理解しながら滞在することで、住民生活との調和が保たれています。

住民にとっても、観光客との交流は宮古島ならではの魅力を再認識する機会となっています。

3 観光振興が住民生活の質を高め、利便性の向上に寄与しています。

道路や公共交通などの交通やインフラは、住民だけでなく、様々なニーズを持つ観光客の利用も見込んで、誰もが快適に利用でき、充実したものになっています。施設やイベントについても、観光客向け／住民向けと分けることなく相互に楽しめるものが増え、観光客が訪れることで住民の安心や楽しみが広がっています。

宮古島市での観光消費は、地域の税収や住民の所得として、住民の暮らしを支える基盤となっています。

4

**住民が宮古島の魅力や生活に必要なサービスに
等しくアクセスできる環境が整備されています。**

住民の日常生活の場と観光客が交わる場所においても、住民と観光客のニーズのバランスが考慮され、住民は安心して買物や通勤通学、通院などができます。住民の祈りの場や神聖な場所は、その重要性や観光客の取るべき行動が明確にされ、適切に保全されています。

住民も好きな時に海に出かけることができ、子どもと遊んだり、一人でゆったり過ごしたりできます。宮古島の魅力をまず住民が実感し、観光客もともに感じられる環境になっています。

5

万が一の備えができていて、住民と観光客の安全が守られています。

地域と事業者の連携によりマリレジャー等の安全が確保され、観光客が宮古島の海を安心して楽しめています。

災害の発生や感染症の流行などにより日常が大きく変化してしまうことがあっても、行政や観光協会、住民、観光関連事業者などそれぞれの役割を理解し、連携して対応することで、観光客を含む島にいる人々を助け合うことができます。観光関連産業に対する危機があった場合も、事業を続け、雇用や経済を守れるよう、計画に基づく備えができています。

こうした危機への備えが観光客の安心にもつながり、万が一のことがあってもいち早く回復し、変化に強い観光・経済の基盤ができています。



3 地域主導による経済循環

1 観光消費が島内で循環し、住民の所得向上と地域経済の活性化に最大限貢献しています。

観光客に選ばれる商品やサービスが十分に島内で流通し、観光客の多様なニーズを島内で受け止めることができている。これらの商品やサービスは、事業の継続性や、島の環境・生活への配慮にもとづく価格やキャパシティが設定され、将来にわたって提供し続けられる状態になっています。

島内で生産された農水産物を使ったり、住民がサービスを提供したりと、人やサービスの地産地消により、観光客の消費が島の生産者や労働者に還元されています。そして、観光と関連する産業で生み出された地域の所得が、給与や投資として宮古島市の経済を循環させる原動力となり、住民の暮らしを支える基盤となっています。

2 観光に関わる多様な人材が育つとともに、地元資本による事業が広がり、人と経済のネットワークが強固になっています。

宮古島市では、観光に関わる多様な人が、それぞれの立場で学び合い経験を重ねながら力を発揮できる環境が育まれています。観光の仕事が島の自然や文化を守り育てる仕事として認識され、観光のあり方を自ら考え行動できる人材が島内に広がっています。

宮古島市で新たな事業を興したい人、ユニークな事業をしている人、地域に貢献する事業をしている人など、観光を起点とした豊かな経済を牽引していく人のネットワークが島内で張り巡らされています。彼らが相互の仕入れや送客、人材の育成・移動などで協力し合うことで、宮古島の経済は市場や社会の変化にも耐える強固で豊かなものになっています。また、人や資本による事業が島内外で成功し、ロールモデルが増えることで、定住・活躍したい人にとって仕事や暮らしの選択肢が広がっています。

3

地域のルールを守り、中長期的な視点で持続的に活動する事業者が活躍できる環境が整備されています。

宮古島の魅力が育まれてきた背景を理解し、人や自然を大切にする事業者が、宮古島市の観光関連産業を主導しています。短期的な儲けではなく、子や孫の代にも宮古島の豊かさを受け継いでいくことを意識し、地域のルールを守って活動する事業者たちが、地域コミュニティからも、観光客からも、評価されています。

地域の合意と客観的な分析・モニタリングに基づくルールのもと、観光客の満足と、自然環境や生活環境の保全とを両立する取組が進んでいます。さらに、宮古島の魅力とその背景を知り尽くした事業者たちの努力によって新たな楽しみ方が生まれ、宮古島は観光客に選ばれ続けています。

4

島の農業・漁業・畜産業と観光の関わりが深まり、食の魅力がさらに発信されています。

飲食店・宿泊施設・お土産・体験など様々な観光客との接点で、島の食材の魅力を観光客が体感できる環境になっています。自然環境や生産の工夫などの美味しさの理由や、農漁業の歴史、健康長寿のライフスタイルなどもあわせて観光客に伝えられることで、観光客の食に対する満足度が上がるとともに、宮古島の食が観光の魅力として確立しています。

海鮮・野菜・果物など季節ごとに様々な食材がとれ、産地と食卓が近いことが、宮古島の魅力として島内外で認知されています。観光客の口を通して宮古島食材の価値が高まり、観光客に限らず島外の人々も通販等でますます求めるようになり、島の農業・漁業・畜産業の収入や販路が拡大しています。



4 宮古島の自然・景観を守る

1 住民、事業者、観光客が一体となり、宮古島の豊かな自然環境を保全し、共存するための責任と役割を共有しています。

宮古島市を取り囲むサンゴ礁は、世界的にも高く評価され、観光客を惹きつけています。観光だけでなく、農漁業など、島の産業は豊かな自然環境のもとに成り立っています。また、住民の生活が地下水などの自然資源に支えられているだけでなく、文化や歴史も自然のうえに育まれてきました。

こうした自然環境の重要性が理解され、次の世代に「美ぎ島」を守り残すために必要なことが住民・事業者・観光客など宮古島に関わる様々な人や団体に共有されています。それぞれが島の自然に生まれ、活動している一員として責任と役割を果たしています。

2 開発による自然環境や住民生活への影響を最小化しています。

開発にあたっては、自然や生態系にどのような影響があるかを客観的な根拠に基づいて分析し、経済活動と、自然環境の保全や住民の安全で快適な暮らしとのバランスが図られており、必要に応じて見直しがされています。

3 水や生態系を守るための選択・行動を一人ひとりが行っています。

一人ひとりの行動の結果が環境に影響を与えることをふまえ、地域のルールや望ましい行動が住民・観光客に共有され、ごみの持ち帰りや環境に配慮された商品・サービスの利用など、環境への影響が小さい行動が選ばれています。

サンゴなどの自然環境への悪影響を防ぎ、人々の安全と生態系の保全につながる取組が進んでいます。また、自然環境の豊かさを取り戻す活動に住民だけでなく観光客も参加する機会があり、海域・陸域の貴重な自然環境を次の世代に受け継いでいく重要性や、そのためにできることが、島内外で共有されています。

4

**限りある地域資源が適切に管理・保全され、
将来世代に引き継がれています。**

地下水をはじめとする自然資源は、適切な基準やルールのもと、住民や観光客に持続的に利用されています。

太陽光などの自然エネルギーが島内で有効に活用され、経済的な効果や生活の安心にもつながっています。

これらの持続的な取組により、宮古島市の自然資源は観光や産業などによって、学び・体験・誇りなど新たな価値が加わり、将来世代に受け継がれています。

5

**自然と人の営みの調和を保ちながら、
宮古島らしい美しい景観が保全・創出されています。**

島の景観は、豊かな自然環境と人々の営みによって生まれ、住民にとっては心やすらぐふるさと、観光客にとってはどこにいても宮古島らしさが感じられる魅力となっています。島内に広がるサトウキビ畑や、平坦な島を一望できる環境、周囲の自然と調和する建物の外観など、自然と人の調和による景観が住民・事業者・行政の合意と努力によって守られ、植栽や美化活動など市民主体の活動に、時に観光客も参加しながら美しく保たれています。

古くからの景観をただ守るだけでなく、技術や社会の変化を自然と調和する形で生活空間に取り入れ、持続可能な社会をつくっていることが感じられます。



5 文化と観光の循環をつくる

1 宮古島の豊かな歴史や多様な文化の持つ価値が再確認され、次世代へ継承されています。

先人たちが育んできた歴史や、工芸・芸能など多様な文化を住民自身が学び体験するとともに、観光客にもふれてもらう機会が充実しています。固有の歴史や文化にふれる人が増え、住民にその価値が再確認されるとともに、経済的な価値を産み出すだけでなく様々な形で価値を発揮できる手法が確立されています。

宮古島の歴史や文化に観光客によって光があてられることで、住民が誇りをもって次世代に文化や伝統を受け継いでいける仕組みができています。

2 子どもたちが島の文化に触れてその価値を深く理解し、未来の文化の担い手・伝道者として育っています。

幼い頃から親しんできた島育ちの人と、島の文化に関心を持つ島外出身の人とが、祭りや伝統芸能などの場で一体となって文化活動に参加しています。文化を守ることを目的化するのではなく、関わること自体に魅力や楽しさを感じられる形で、いきいきと文化活動が行われています。

その中で、長年島の文化を支えてきたおじい・おばあの知恵と、島の文化に惹かれて関わる島内外の人々の力が重なり、文化の担い手が広がっています。その姿を見た子どもたちも活動に参加するといった世代間のつながりが続くとともに、地域のコミュニティや学校など、地域全体で文化活動が支えられています。

島の文化の魅力を語る住民や島外のファンが増え、伝統文化も宮古島の魅力として島内外に認知されています。

3**島で育まれた文化にふれることが、
宮古島の魅力として観光客に認知・実感されています。**

住民が主体となって、生活に溶け込んだ文化や伝統が守られているとともに、島の文化が育まれてきたストーリーを観光客に伝え、体験したり商品として持ち帰ったりできる機会が充実しています。島の文化を知り、参加・商品の購入・寄付といった様々な形で応援するファンが島外にも広がっています。

宮古島の文化は、住民による保全活動や観光客との交流、時代の変化などを経て、その本質は保たれながらも、新たな表現や実践が生まれるなど発展し続けています。

4**観光が伝統文化の魅力を国内外に発信し、継承に貢献しています。**

宮古島市を訪れ、伝統文化を肌で感じた観光客が伝道者となって、国内外に魅力が知られ、それを求めて訪れる観光客が増える循環が生まれています。宮古島のストーリーを知って訪れた観光客が島の人々や文化と関わり、住民がますます地元の文化に誇りを持ち積極的に関わるといった循環から、住民と観光客が影響を与えあっています。

島の文化は、産業や暮らしを支える観光の力も取り入れながら、次世代へと受け継がれていきます。



第 3 章 宮古島市の観光の現状

(1) 宮古島市の観光の変遷（概略）

宮古島市は、温暖な気候、透明度の高い海、サトウキビ畑が一面に広がる景観など、リゾート観光地域として国内でも有数のポテンシャルを有しています。

宮古島市を構成する島のうち大神島を除く 5 つの島が架橋によってつながり、市内の移動が便利になったことで観光客にとっても周遊がしやすく利便性が高まり、2015 年に伊良部大橋が開通した頃から、宮古島市の観光はさらに大きく成長しました。

2019 年には下地島空港の新ターミナルが開業したことで全国でも珍しい「2 つの空港がある市」になり、島外からの交通アクセスもますます便利になりました。下地島空港を発着する国際線の定期便が 2019 年に就航し、2020 年には平良港のクルーズ専用岸壁が供用開始されるなど、訪日外国人の受入も進んでいます。

その結果、観光は宮古島市のリーディング産業として、投資・雇用・消費をもたらし、宮古島の経済の成長に大きく貢献しています。

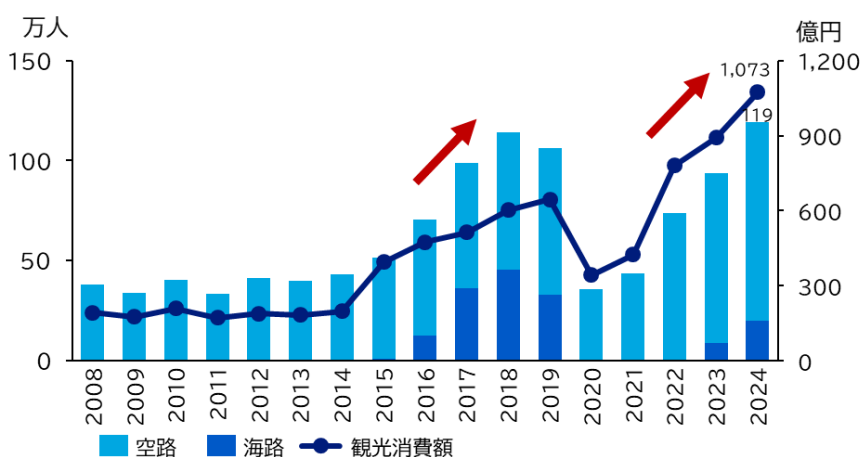
表 1 宮古島市における観光の変遷

1956	宮古空港 開業
1972	本土復帰
1979	下地島空港 開港
1985	第 1 回全日本トライアスロン宮古島大会開催
1992	池間大橋 開通
1993	プロ野球のキャンプ 初開催
1995	来間大橋 開通
2005	平良市・城辺町・下地町・上野村・伊良部町の合併により、宮古島市誕生
2015	伊良部大橋 開通
2019	下地島空港 新ターミナル開業・ 国際線の定期便が就航
2020	平良港クルーズ船専用岸壁 供用開始
2025	下地島空港 国際線の定期便が再開

(2) 宮古島市の観光の現状

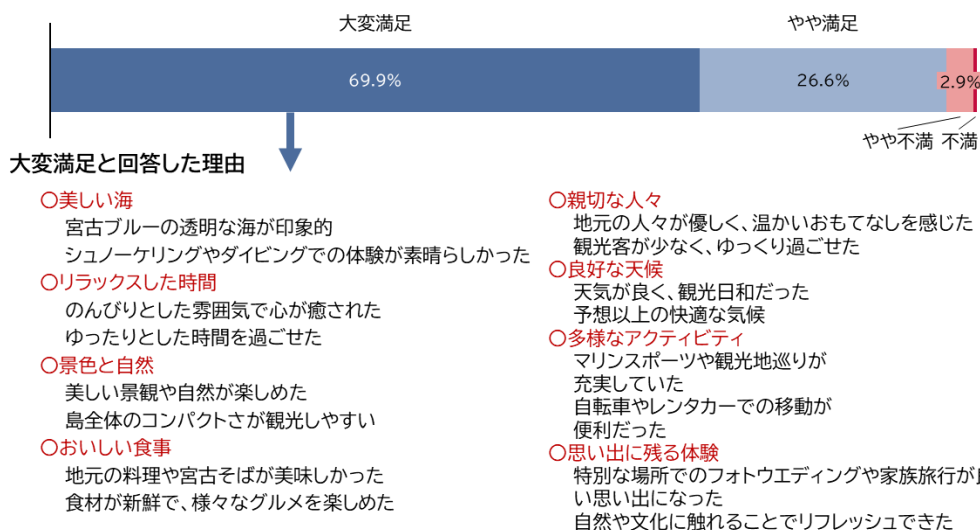
宮古島市の入域観光客数・消費額は 2015 年の伊良部大橋開通後、新型コロナウイルス感染症による一時的な落ち込みを除いて増加傾向にあり、2024 年度には入域観光客数・観光消費額ともに過去最高となりました。空路で訪れた観光客 1 人あたりの消費額は 10 万 6,000 円と、国内の他の観光地と比べて高い水準にあります¹。

図 1 宮古島市の入域観光客数(左軸)と観光消費額(右軸)の推移²



宮古島市を訪れた観光客の満足度は非常に高く、その理由として美しい海や豊かな自然だけでなく、人とのふれあいや食、思い出に残る体験なども挙げられています。

図 2 宮古島市を訪れた観光客アンケート結果(2024 年度)³



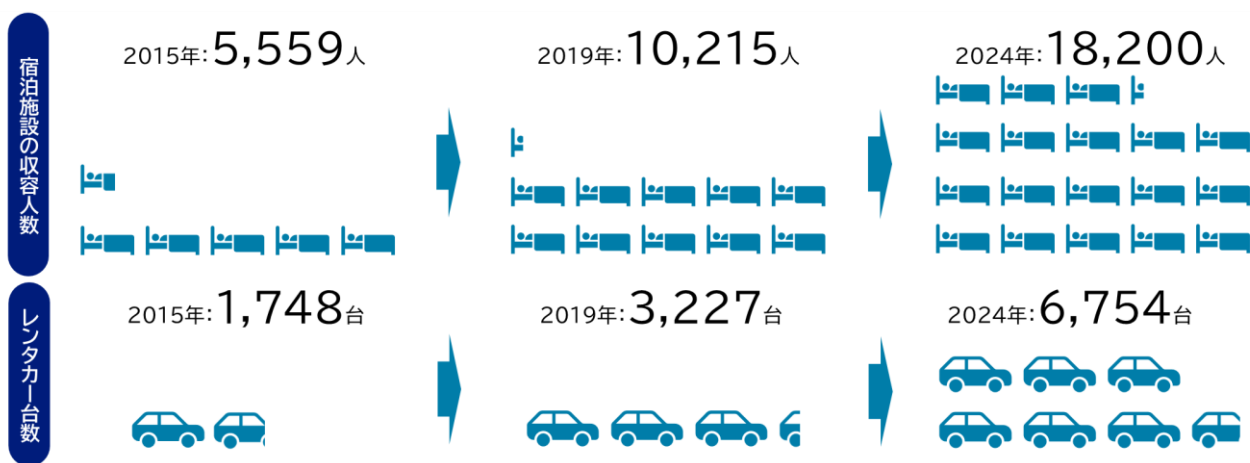
¹ 観光庁「旅行・観光消費動向調査」によると、国内の観光・レクリエーション目的による宿泊旅行は 1 人 1 回あたりの単価が約 7.8 万円となっています。

² 入域観光客数は「統計みやこじま」によります。観光消費額は、沖縄県「観光統計実態調査」での消費単価をもとに推計しています。

³ (一社)宮古島観光協会「観光アンケート」

2015年から2024年にかけて倍増した観光客の行動をみると、空路で宮古島市を訪れる観光客は平均2.75泊市内に滞在するため、多くの宿泊需要が生まれています。また観光客の約85%がレンタカーを利用しており、橋で結ばれた各エリアを多くの方が訪れています。観光客の急増を背景に、ホテルやレンタカーをはじめとする観光関連事業者が増加しています。

図3 宮古島市における宿泊施設の収容人数・レンタカー台数の変化⁴



一方で、観光の急成長にともない、様々な課題もみられます。

- 観光客の増加による、マナーの問題や、交通ルールに関する問題
- 住居の不足や家賃の高騰など、住民の生活インフラに関する課題
- 観光関連産業をはじめとする人手不足
- 自然環境・資源・景観等の保全 など

そのほかにも、観光による経済波及効果が実感されていない、観光が文化の継承に十分にはつながっていないなどの声も上がっています。

こうした状況にあって、多くの住民が観光客を歓迎する気持ちを持っている一方で、観光事業者に対する印象について、「あまり良くない」「まったく良くない」と答える割合がやや増加傾向にあります。年代別にみると、10～30代で良い印象を持つ方が多い一方で、40代の観光関連産業への印象が特に悪くなっています。

⁴宿泊施設の収容人数は沖縄県「宿泊施設実態調査」、レンタカー台数は内閣府沖縄総合事務局「業務概況」によります。

図 4 住民の観光客を受け入れる気持ち (2025 年度)⁵

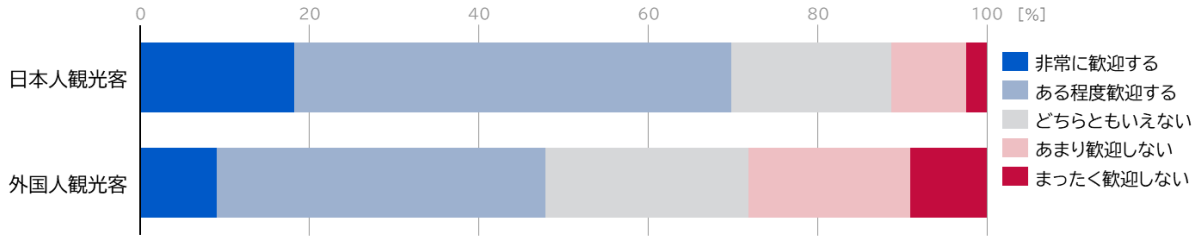
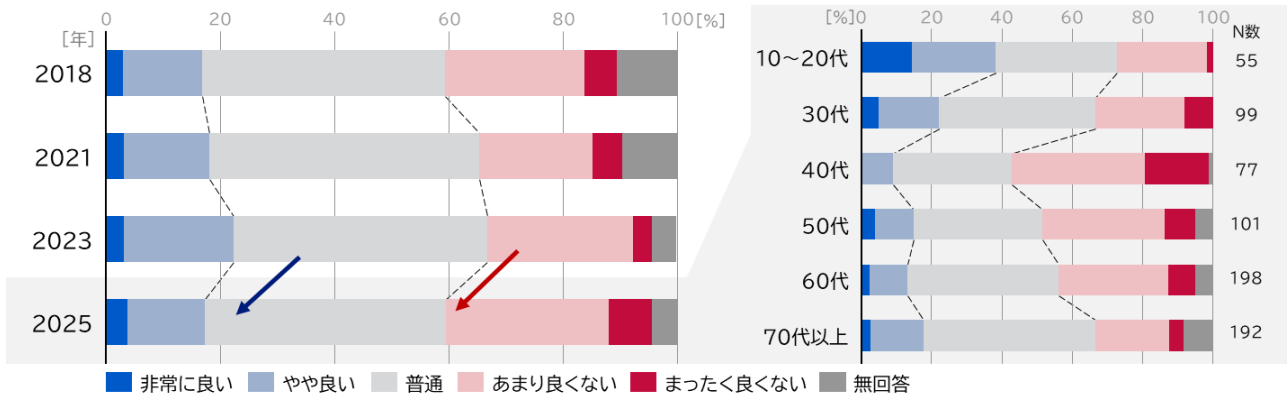
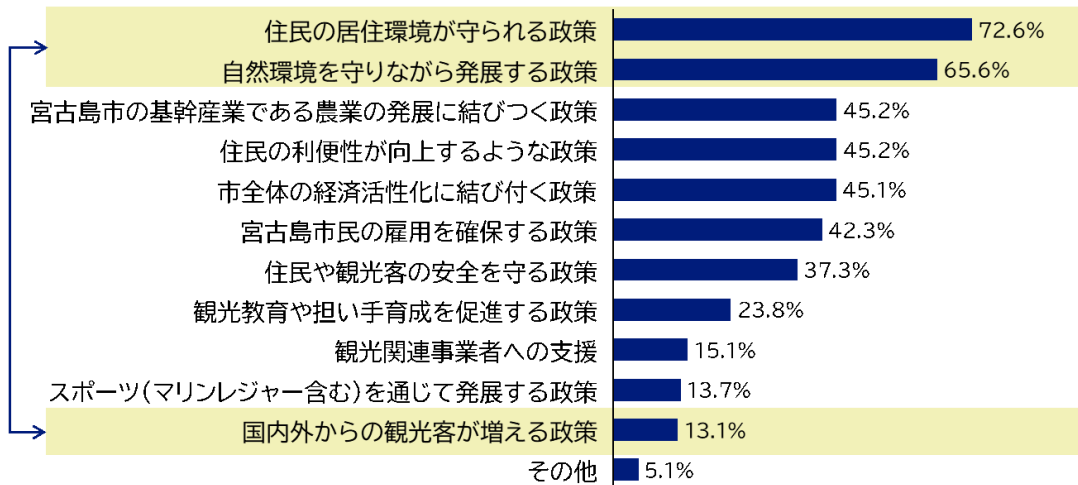


図 5 住民の観光関連産業に対する印象⁵



また、住民が考える、宮古島市が今後行うべき観光政策については、「住民の居住環境が守られる政策」や「自然環境を守りながら発展する政策」の割合が高く、「国内外からの観光客が増える政策」は最も低い割合となりました。観光客の数（「量」）を追い求めるよりも、生活環境や自然環境などと調和した観光など、「質」を求めるべきと考える方が多いと言えます。

図 6 住民が考える、宮古島市が今後行うべき観光政策 (2025 年度)⁵



⁵ 宮古島市の観光に関する住民アンケート(2025年10~12月実施)より。住民3,000世帯に配布し回答者数723名



(3) 住民の主な意見





観光振興ビジョンの策定にあたり、住民が考える観光のあるべき姿を話し合う「観光ラウンドテーブル」(表 2)や前出の「宮古島の観光振興に関する住民アンケート調査」を通して市の観光の将来あるべき姿に関してさまざまな意見が寄せられました。また、2026年2月には「宮古島市観光振興ビジョンシンポジウム」を開催し、「未来の宮古島の観光の姿」「地域と観光客の Win-Win な関係」について議論しました。これらを通して得た、住民の観光に関する主な意見は次の通りです。

表 2 住民意見収集の実施概要

	観光ラウンドテーブル	食・音楽関係者ヒアリング	住民アンケート調査
実施期間	2025年10~11月	2025年10~11月	2025年10月~2026年1月
実施方法	対面(住民編市内5地域、若者編、食・音楽編2回、島外若者編ののべ9回開催)	市内外で宮古島の食・音楽に深く関わる方に個別ヒアリング	アンケート調査(行政連絡員経由または郵送で、3,000世帯に無作為に配布)
人数	のべ27名	4名	723名

■意見の一例

<p>観光のあり方</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● お金を落としてくれるのはありがたいが、その対価が地元民への迷惑では意味がないと感じる ● 観光で働くことを誇りに思えるようになりたい ● コロナ禍で人の移動が止まった世界では、島の経済が成り立たなかった。観光客と住民の共生を考える必要がある。もうけを外に出さないだけでなく、地域に取り入れる考えも必要 ● 開発によって風景が変わったことを単に嘆くのではなく、「変わったからこそできること」に目を向け、それを活用して経済を回していく発想が必要 ● 専門分野だけで固まるのではなく、ネットワークを構築し、島全体が観光に対して関心を持ち、観光に取り組んでいるという意識が重要
<p>宮古島の 独自性・誇り</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 宮古島は独自の自然を有している。どこかの真似ではなく独自性を継承すべき ● 海岸線から見ても、海から見ても、大きな建物に邪魔されない自然の景観がとても魅力的 ● 宮古島が全国に知られていることを誇らしく思う。子どもたちが島を大事に思い、伝統や文化を誇らしく思えるよう協力したい ● 宮古島に来ると、アーティストも含めてみんな顔が穏やかになる ● 島の独自性こそが世界に通用する、誇れるものだと信じている ● 地元の人が地元の力を出し、文化や歴史を風化させずにつないでいける地域であってほしい

<p>生活環境</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民にとって住みやすい自治体は、観光客にも魅力的にうつるはず ● 昔のように自然豊かで、のんびり、ゆっくりとした島であってほしい ● 観光事業者に島の状況をきちんと理解してもらい、地元貢献の意識が高まるよう働きかける工夫が必要である
<p>環境や景観の保全</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 開発することよりも、今ある海や自然をどれだけ守れるかが大切。建物だらけの島では誰も来なくなる ● もっと花を植えて、住民ボランティア等で美しい宮古島に。何度でも来たいという気持ちを持たせたい ● 島を大切にできるからこそその観光。安売りしないでほしい
<p>宮古島の 人・交流</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 宮古島の好きなおところはたくさんあるが、中でも人とのつながりが他のところと比べて強いところが好きだ ● 来島者が最も言うのは「時間が止まっている」点である。それから、人情味がある点も挙げられる。困っている人を放っておけない、見て見ぬふりができない ● 観光客が、ホテルやレンタカー、タクシーの運転手以外に、宮古島の住民と一人も会わずに帰っている可能性がある。食と音楽の場が、地元の人との接点として大事である ● 宮古島の魅力は、海が綺麗であること以外に見えにくい部分がある。言われて初めてわかる魅力が多い。ガイドや島の人との交流を通じて、その魅力が立体的に観光客に伝わる ● 人との交流を通じてその土地と仲良くなることで、外部の人が愛情を持って島に眼差しを向けてくれる環境ができる
<p>宮古島の文化</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● おばあの料理には心がこもっている。それを観光にも出したい ● 最も大きな魅力は、他の地域にないもの、つまり文化的なものである。もっと体験を充実させ、本物に触れることが、観光の価値として非常に重要 ● 古い文化に新しい価値を与え、観光客に「荷物にならないお土産」としてクイチャーを覚えて帰ってもらいたい ● 観光客が地元の三線職人を支える仕組みや、お金が職人に行く仕組みが必要 ● 地元の人たちが地元の食材や文化を頑張っって次の世代に伝えようとする取り組みは、観光客の興味を引き、参加したいと思うきっかけにもなる。まずは自分たちが動くことが大事 ● 歴史・文化など海だけでない宮古島の魅力を体験するにあたっては住民のペースを守ることが重要で、しっかりと交渉できるコーディネーターが必要 ● 宮古島の音楽・食・芸能などを丸ごと楽しめる場所が必要。宮古の独自性を住民・観光客にってもらえれば、コミュニケーションも生まれるのではないかと

第4章 おわりに

このビジョンは、住民にとって望ましい宮古島の観光のあり方の将来像をまとめたものです。ビジョンの実現に対して具体的な期限や取組内容を設定するものではありません。観光は情勢の影響を受けやすい部分がありますが、変化が激しく将来を見通すことがますます困難な局面にあって、目指す姿を失わずに掲げ続けることが、観光を通してより良い宮古島をつくる上で重要と考えビジョンとして取りまとめました。

具体的な施策については、その時々的情勢をふまえながら、市と関係者が対話しながら定め、随時見直しを図ることが重要です。ビジョン達成のためには、市役所のみならず、観光協会や事業者、住民など、幅広い主体の連携が欠かせません。このビジョンに共感し、ともに宮古島の観光をつくっていく仲間が宮古島の内外に広がることを期待します。

